

October 19, 2020

【前日の為替概況】ポンドドル、英欧通商協議懸念や英格下げで 1.2865ドルまで続落

16日のニューヨーク外国為替市場でドル円は小反落。終値は105.40円と前営業日NY終値(105.45円)と比べて5銭程度のドル安水準。アジア時間に一時105.19円と日通し安値を付けたものの、海外市場ではじり高の展開に。9月米小売売上高や10月米消費者態度指数(ミンガン大調べ)速報値など良好な米経済指標が相次ぐと、米長期金利の上昇とともにドル買いが優勢に。24時過ぎに105.44円付近まで値を上げた。ただ、アジア時間に付けた日通し高値105.45円を上抜けることは出来なかった。前日の高値105.49円や14日の高値105.52円など105円台半ばでは上値の重さも意識される。NY中盤以降は週末を控えたポジション調整の動きが主体となり、値幅6銭程度の狭いレンジ取引に終始した。

若田部日銀副総裁はパネル討論会で「日銀は為替レートを目標にしていらないが、為替の動きを非常に注意して追いつけている」「為替レートがインフレに及ぼす影響に留意する必要」などと述べたと伝わった。

ユーロドルは小反発。終値は1.1718ドルと前営業日NY終値(1.1708ドル)と比べて0.0010ドル程度のユーロ高水準。新型コロナウイルスのワクチン開発への期待から欧米株価指数が上昇すると、リスク・オンのドル売りが先行し、1.1746ドルと日通し高値を更新した。ただ、9月米小売売上高態など良好な米経済指標が相次ぐと、徐々にドル買い戻しが優勢となり1.1713ドル付近まで上げ幅を縮めた。

ユーロ円は5営業日ぶりに小反発。終値は123.48円と前営業日NY終値(123.45円)と比べて3銭程度のユーロ高水準。123.71円と本日高値を付けたものの、買い一巡後は123円台半ばで値動きが鈍った。

ポンドドルはブレグジット絡みの報道に一喜一憂する神経質な値動きだった。ジョンソン英首相は、「欧州連合(EU)側の交渉姿勢に変化がない限り、合意できない」と明言し、「自由貿易協定(FTA)なしの結果に備える必要がある」と国民や経済界に呼びかけた。英国とEUの交渉が決裂し、経済が混乱するリスクが高まりポンド売りが出た。半面、ジョンソン氏が決裂を表明しなかったことで「交渉継続の余地は残されている」と判断されて、ポンド買い戻しも入った。市場では「交渉上の駆け引き」との見方があった。

「バルニエEU首席交渉官とフロスト英首席交渉官は来週初めに再交渉することで合意」との報道にポンド買いで反応した一方、「フロスト氏はバルニエ氏の訪英を断った」との報道にポンド売りで反応するなど、1.29ドル台前半で売買が交錯した。米格付け会社ムーディーズが英国を格下げしたことを受けてポンド売りが出た。

【本日の東京為替見通し】日本の対米貿易黒字や中国の経済指標に要注目か

本日の東京外国為替市場のドル円は、22日に開催予定の第2回米大統領候補討論会に向けて動きづらいつ展開が予想される。

2016年の米大統領選挙では、優勢だったクリントン民主党候補の国務長官時代のメールの存在が致命傷となったが、今回も優勢なバイデン民主党候補の副大統領時代のメールが報じられていることで、米大統領候補討論会でのトランプ米大統領の巻き返しが警戒されている。バイデン民主党候補は、息子のハンター・バイデン氏が役員を務めていたウクライナのエネルギー会社「ブリスマ」の関係者には会ったことがない、と述べていたが、今回のブリスマ顧問のバディム・ポザルスキー氏のメールでは、ワシントンで面談したことを裏付ける内容となっている。

ドル円のオーダー状況は、上値には、テクニカルポイントである一目均衡表・転換線(過去9日間の高値・安値の中心値)105.58円付近の105.50円と105.60円にドル売りオーダー、超えるとストップロス買いが控えている。下値には、一目均衡表・基準線(過去26日間の高値・安値の中心値)105.09円の下105.00円にドル買いオーダー、割り込むとストップロス売りが控えている。

8時50分に発表される日本の9月貿易統計では、季節調整前で9898億円の黒字、季節調整済で9675億円の黒字と予想されている。日米の日米貿易不均衡の是正は、現状での論点ではないものの、対米貿易黒字が8月の3731.1億円から増加傾向にあれば、ドル円の上値を抑える要因となることで要注目か。

11時に発表される中国の7-9月期国内総生産(GDP)の予想は前期比年率+3.2%/前年同期比+5.2%(4-6月期:前期比年率+11.5%)、9月鉱工業生産の予想は前年比+5.8%(8月+5.6%)、9月小売売上高の予想は前年比+1.8%(8月+0.5%)とまちまちとなっている。

ポジティブサプライズとなり人民元が強含む局面になった場合、先週、急激な人民元高を抑制するため「外貨リスク準備金率」を20%から0%へ引き下げた中国人民銀行の対応に要注目となる。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

○08:50 ◎ 9月貿易統計（通関ベース、予想：季節調整前 9898 億円の黒字、季節調整済 8543 億円の黒字）

<海外>

○08:01 ◇ 10月ライトムーブ英住宅価格

○11:00 ☆ 7-9月期中国国内総生産（GDP、予想：前期比年率 3.2% / 前年同期比 5.2%）

○11:00 ◎ 9月中国鉱工業生産（予想：前年比 5.8%）

○11:00 ◎ 9月中国小売売上高（予想：前年比 1.8%）

○18:00 ◇ 8月ユーロ圏建設支出

○21:00 ☆ パウエル米連邦準備理事会（FRB）議長、講演

○21:30 ◇ 8月カナダ卸売上高

○21:30 ◎ ラガルド欧州中央銀行（ECB）総裁、講演

○23:00 ◎ 10月全米ホームビルダー協会（NAHB）住宅市場指数（予想：83）

○23:05 ◎ カンリフ英中銀（BOE）副総裁、講演

○20日 00:45 ◎ クラリダ FRB 副議長、講演

○20日 03:20 ◎ ポスティック米アトランタ連銀総裁、講演

○20日 04:00 ◎ ハーカー米フィラデルフィア連銀総裁、講演

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

16日 09:59 トランプ米大統領
「選挙が最高裁に持ち込まれないように望む」
「私の債務比率は非常に低い」
「内国歳入庁の監査が終われば、納税について公表する」
「白人至上主義者を批判する」

16日 10:42 バイデン民主党候補
「次回の大統領候補討論会に参加するつもり」
「トランスジェンダーを巡るトランプ米政権の措置を撤廃する」
「トランプ米政権の外交政策は称賛に値しない」
「石油関連の税優遇・補助金をストップする」
「将来は、再生エネルギーにかかっている」

16日 14:38 ロート独欧州担当相
「我々は英国との通商合意を望んでいるが、譲歩はしない」

16日 16:06 ラーブ英外相
「EUとの通商合意は双方の善意があれば可能」

16日 17:14 マクルーフ・アイルランド中銀総裁
「私見では、現時点で ECB 理事会が新たな策を講ずるべきとの証左はない」
「より強大な手段を施す可能性は残されたまま」
「現状では、利下げは最善の策ではない」

16日 17:36 レーン・フィンランド中銀総裁
「景気回復は予想より弱い」
「インフレリスクは下向き」
「最近のデータは特にサービス分野での失望感が下振れリスクを増幅」

16日 18:28 ビスコ伊中銀総裁
「財政・金融政策は緩和的な状態を維持しなければならない」
「数年間は新型コロナ以前の状況に戻ることはないだろう」

16日 19:57 易綱中国人民銀行(中央銀行)総裁
「G20(主要20カ国)による途上国向け債務の返済猶予延長案を支持する」

16日 19:59 ジョンソン英首相
「我々はオーストラリア式のブレグジット協定で準備すべきと結論付けている」
「EUの立場に根本的な変化があるならば、我々は喜んで耳を傾ける」
「何ら変化がなければ、我々はオーストラリア式の合意を目指す」
「カナダと同じ条件の通商協定をEUは英国に示す意思がない」
「英国は独立した国として繁栄する」
「EUは自由貿易協定を結ぶ構想を放棄した」

16日 20:33 ビルロワドガロー仏中銀総裁
「現在の緩和的な金融政策は適切」
「危機終焉まで現行の政策を継続」
「不透明感のなかで終了の期限を決めることは間違い」
「我々には、今後のデータ次第に必要なさらなる大きな手段が必要となった場合の余力がある」

16日 21:56 マクロン仏大統領
「英・欧州連合(EU)漁業権の調整は現時点で不調」

16日 22:11 ムルヤニ・インドネシア財務相
「G20メンバーは経済が回復するまで刺激策の拙速な終了を回避すべき」

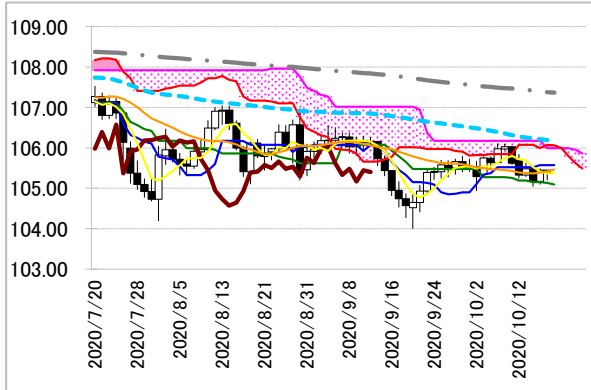
16日 22:35 クノット・オランダ中銀総裁
「新型コロナウィルス危機の最悪期は必ずしも終わっていない」

16日 23:36 若田部昌澄日銀副総裁
「日銀は為替レートを目標にしていないが、為替の動きを非常に注意して追いつけている」
「回復のペースはかなり緩やかになる可能性」
「為替レートがインフレに及ぼす影響に留意する必要」

17日 01:42 トルドー加首相
「中国の高圧的な外交には反対するが、緊張関係をエスカレートさせるつもりはない」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

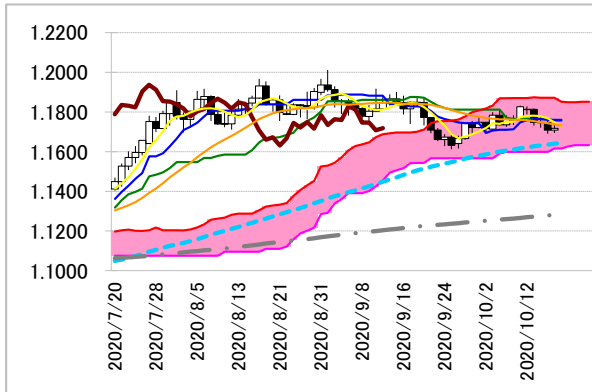


<ドル円=雲の下限を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を上回っているものの、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、売りシグナルが優勢な展開となっている。孕み線で転換線を下回って引けていることで、続落の可能性が示唆されている。

本日は、雲の下限を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上げた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	105.99(日足一目均衡表・雲の下限)
前日終値	105.40
サポート1	104.94(10/2 安値)
サポート2	104.00(9/21 安値)

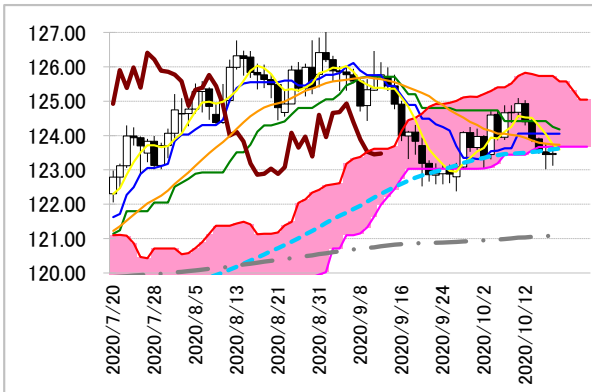


<ユーロドル=転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の中で引けているものの、転換線を下回って引けていることで、売りシグナルが優勢な展開となっている。基準線と転換線を下回って引けていることで、反落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上げた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	1.1760(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	1.1718
サポート1	1.1615(日足一目均衡表・雲の下限)

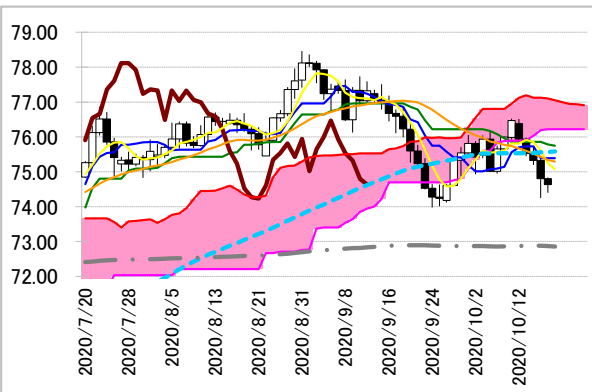


<ユーロ円=転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

小陽線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。小陽線で反発したものの、転換線を下回って引けていることで、反落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上げた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	124.06(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	123.48
サポート1	122.38(9/28 安値)



<豪ドル円=転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。5手連続陰線で転換線を下回って引けていることで、続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上げた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	75.39(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	74.63
サポート1	73.98(9/24 安値)

